

Sustainable Report No.141

海洋ゴミから作る 脱炭素スニーカー

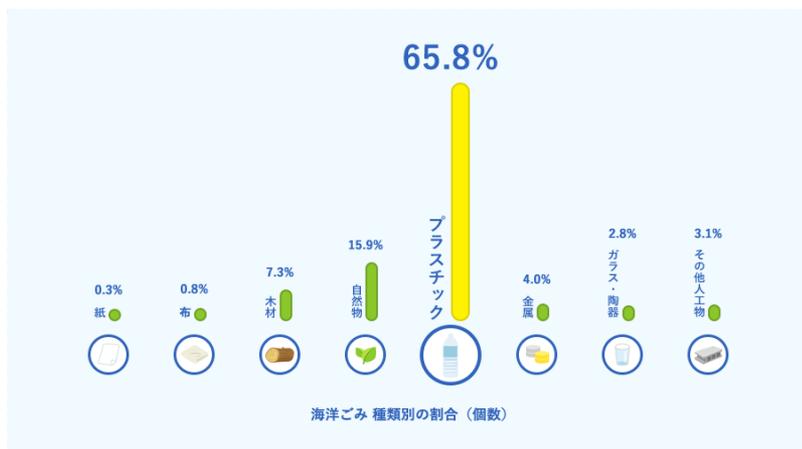


Satisfactory

■ 履物の大量生産による石油由来素材の大量消費

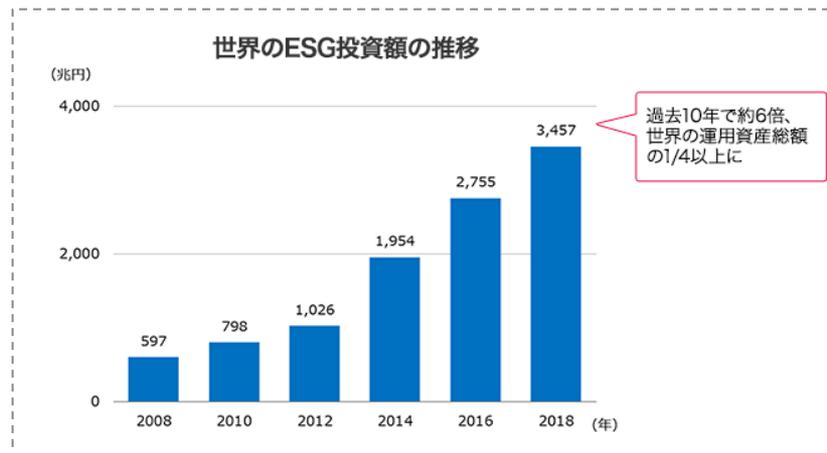
- 石油由来商材の不適正処理が海洋汚染を引き起こすことが問題視される中、**石油由来素材に偏る履物は、年間200億足も大量消費**されている。
- 2020年の履物市場規模がCAGR（年平均成長率）5.5%増加する中、ファッションのカジュアル化により**スニーカー需要が高まっている**。
- 環境負荷に係る消費者の意識変革や、**投資家からのプレッシャー**が強まっている。**耐摩耗性をもつ石油由来素材**が多く用いられるスニーカーだが、世界中のブランドでリサイクル素材が注目されている。

■ 石油由来商材は海洋ごみの65%以上を占める



出典：日本財団ジャーナル

■ 年々拡大していく世界のESG投資



出典：SMBC日興証券

海洋汚染の問題に貢献できるスニーカーとは

■ ECOALF社による海洋ゴミの再生素材スニーカー



- アパレルブランドのECOALFは「次世代に残すべき世界」をテーマに、2009年にスペインで設立。当財団の取組み**UPCYCLING THE OCEANS**へ販売価格の10%を寄付。
- 当取組みに賛同する**漁師が漁業中に海洋ごみを回収**。主に缶やペットボトルを分別し再生した繊維から、スニーカーを製造・販売。約3千人の漁師が参加し、2015年から**累積500 t 以上**の海洋ごみを回収。
- 世界の海洋ごみ流入量の内、**当取組みによる回収量は0.1%に満たない**。

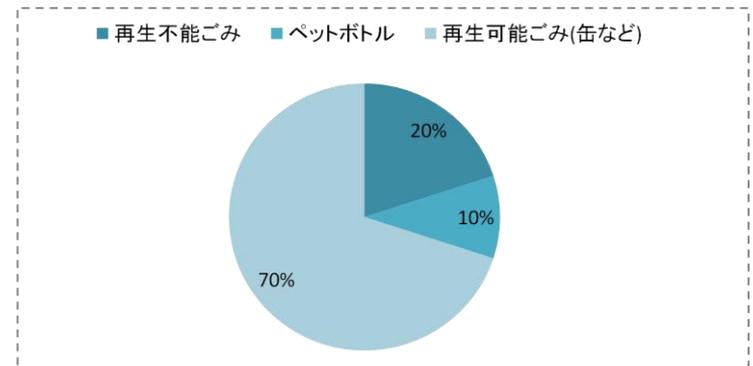
出典：ECOALF (YouTube)

■ UPCYCLING THE OCEANS概要



出典：ECOALFをもとに筆者が配置編集

■ 回収した海洋ゴミの内訳



出所：ECOALF

海洋ごみの回収や流入抑制に有言実行できる事業者を増やすには

■ 地表やブランドを超えてUPCYCLING THE OCEANSに参加する

- UPCYCLING THE OCEANSに参加する**世界の漁船漁業従事者は0.7%に満たない**。特にプラスチックは海洋流入し時間が経過してしまうと、回収不可能なマイクロプラスチックと化す。
- 日本の漁業者従事者の当取り組み参加への懸念を除去し、都市部に限らず港までの**静脈インフラを構築**し、参加割合を拡大。
- **他企業へも再生繊維の提供**を行い、当取り組みの拡大を推進していく

■ 漁業事業者が抱える懸念事項

漁業回収時	回収ごみ運搬、陸揚げ時の作業負荷
	漁獲物とごみ分別時の手間・ケガ
	回収時の破網・航行障害
漁業回収後	ごみの保管場所の確保
	保管場所への海底ごみ以外の投棄
	回収から処分までの調整

■ 回収した海洋ごみ分別の様子（国内）



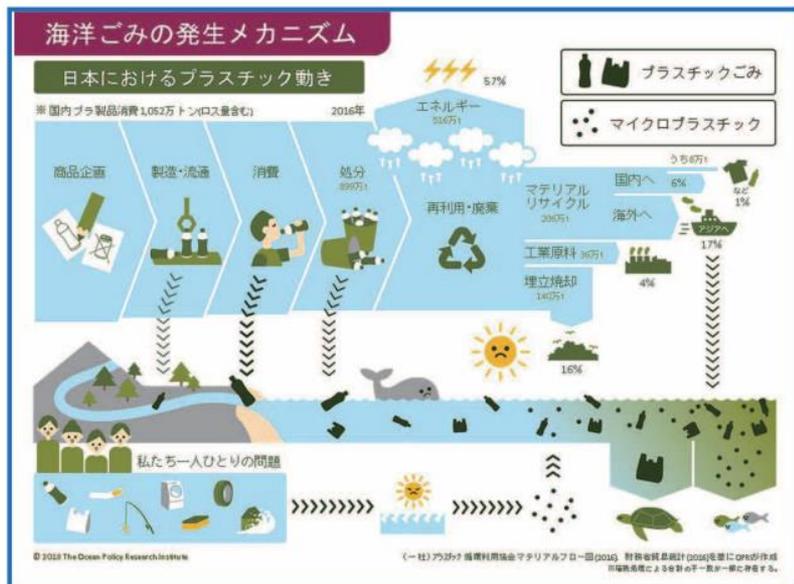
出典：三陽商会（PR TIMES）

再生材の出口の価値を上げ、インセンティブ設定がモチベーション向上に資する

■ 世界中において、「ごみ」を「海洋ごみ」にしない対策が必要

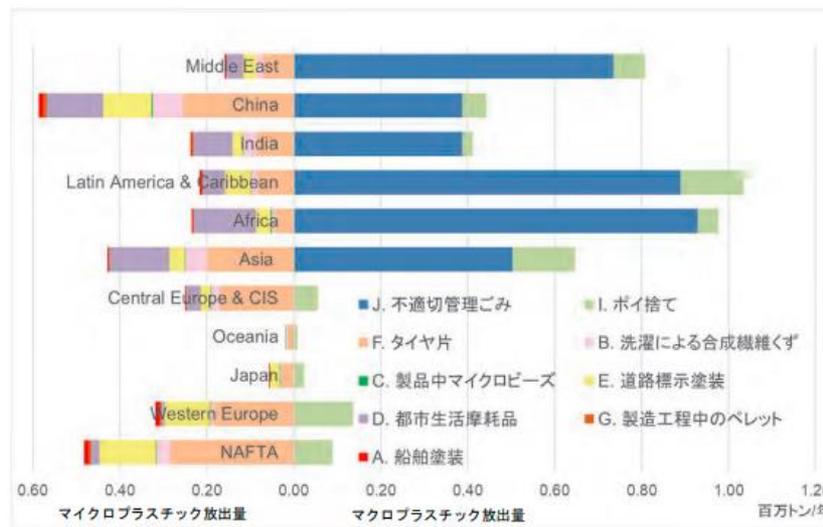
- 陸上活動により発生したごみが、**河川を伝って海に流入**したものが海洋ごみとなる。
- 主要排出源である東アジア及び東南アジア地域に**世界中のごみが集合**しており、日本も当地域へプラスチックを輸出している。
- 日本のプラスチックの輸出を未然に抑えるために、プラスチック製品の**消費方法や商品設計の見直し**が必要。

■ 海洋ごみの発生メカニズム



出典：笹川平和財団

■ 地域別のプラスチックごみの放出量



*1 アジアは、日本、中国、インドを除く。
*2 「H. 漁網、ネット」(総量0.6百万トン/年)は発生源が特定できないため含まれていない。

出典：国際協力機構がUN Environment,2018(Table S2)より作成

■ 参照・引用資料

- 業界動向サーチ, 「靴業界」, 2022年02月11日 (URL : <https://gyokai-search.com/3-kutu.html>)
- 経済産業省, 「履物産業を巡る最近の動向」, 2020年04月01日 (URL : https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/seikatsuseihin/hikaku/downloadfiles/footwear2020.pdf)
- 環境省, 「令和2年度漁業者の協力による海底ごみ回収実証業務の結果について」, 2021年12月09日 (URL : <http://www.env.go.jp/press/110250.html>)
- 環境省, 「環境白書 第3章 プラスチックを取り巻く状況と資源循環体制の構築に向けて」, 2018年 (URL : <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r01/html/hj19010301.html>)
- ECOALF, 「UPCYCLING THE OCEANS」, 2020年 (URL : <https://ecoalf.jp/contents/upcyclingtheoceans>)
- 日本財団ジャーナル, 「【増え続ける海洋ごみ】今さら聞けない海洋ごみ問題。私たちに何ができる?」, 2020年04月27日 (URL : <https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2020/43293>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先 : info@sfinter.com



株式会社サティスファクトリーは、SDGsに係る人材教育プログラム『**KIZUNA ESD**』を企業に提供しております。全ての従業員によるサステナブルレポート作成やSDGs映画上映会の実施など、各種運用の導入と内製化を支援いたします。

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

— サステナブルレポートとは? —

サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマをとりあげ、サティスファクトリー社員が調査報告書を作成・発信しています。



全従業員で
毎週更新中